

第2回所長講話 「私の考える教師像」

所内研修の中の「所長講話」は、2ヶ月に1回のペースで実施しています。

第2回目は、「私の考える教師像」という講話題で、43ページにもおよぶ資料と共にお話ししてください、教師として人を育てるという責任の重さと、専門性を磨き、人格を磨き、資質の向上を行うことがプロ意識を持つことだと、教育に対する熱い情熱を伝えるとともに、これからの求められる教師像を具体的な姿として示唆をいただきました。

【所長講話の主な内容】

- 1 私自身の学習に係ることから
 - (1) 小学校のころ
 - (2) 中学校のころ
 - (3) 高等学校と大学
 - (4) 教師になってから
- 2 さて、あなたはどのような教師を目指しますか
- 3 特に現在社会における学校の役割
- 4 教師に求められていること
 - (1) 子どもの良さを引き出し伸張させること
 - (2) 自尊感情を高めること
 - (3) 毎日の生活が明るくたくしく生き生きと過ごさせてあげること
 - (4) 夢や希望を広げ社会に貢献できる人材を育てること
- 5 どうして自尊感情を高めることが必要か
- 6 授業づくりは一番の生徒指導
- 7 望む教師像
 - (1) 子どもに愛情を持って寄り添い情熱のある教育実践ができる教師
 - (2) 高い人格を有し人間味溢れる教師
 - (3) 教育の専門家である教師
- 8 社会の変化
 - (1) 社会の変化と求められる人材像
 - (2) 21世紀力能力
 - (3) 日本の近年の教育施策と社会の変化
- 9 学校・家庭・地域の連携が子どもの学力を高める
- 10 これからの授業をどのようにする？
- 11 笑顔で明るく希望に満ちた誇り高い教職生活にしよう！



写真1 所長講話



写真2 真剣に聞き入る教育研究員

【教育研究員の感想】(研修日誌から)

今日の所長のお話から、幼い頃から自尊感情を育むことが自立へつながること、現代社会においては学校が人間関係を多様化する場としての役割を果たすなど重要な場所であることなど多くの学びがありました。

不適切な行動に注目するのではなく、良い行動を認め注目することや、叱る場合もプライドを傷つけないようにすることなど、これまでの現場での子ども達へのかかわりを反省させられる部分もありました。私が特に心に残ったのは、大村はま氏の「なさい」と言いたいことをそう安易に言わないで、自然に子どもにさせてしまう人こそ教育の専門家である」という言葉です。自分は人を育てるプロなのだという自覚と責任を持つことの大切さを改めて感じました。これからも教師として、専門性を磨き、人格を磨き、資質の向上に努めていきたいと思えます。

(金城さくら)

所長の講話にはいろいろなことを教えられました。教師としてのあるべき姿とは・・・そのためには何を意識し、どうすればいいのか。多くの答えが講話の中から見えてきたように思います。

今後教育活動に取り組む中でいかに意識して取り組むかが大切になってくると思います。まずは意識することで自分がやれることからひとつひとつ小さいことからでも取り組んで行きたいと考えています。

所長のお話を聞いて反省することばかりでした。現場に戻ったとき特に心がけたいことは児童の立場になって考えてあげられること。ゆっくり話を聞いてあげること。そして子どもたちのために一生懸命取り組むこと。この3点を意識してやっていきたいと感じました。
(大城厚)

所長講話で、めまぐるしく変化する社会の中での学校の役割や教師の役割について、所長のこれまでの生き方や教職実践を交えながら、丁寧に説き明かして頂きました。講話の中で、教師のやるべきこととして、「子ども理解」「自尊感情や心の安定」「授業改善」が主な柱だと考えました。「縁を生かす」という記事から、教師の好き嫌いや今日にしている姿だけではなく、ありのままの姿やこれまでの様子等も参考に一人一人の子どもについて把握し、個に対応していく大切さを改めて感じました。また、これから生きていく上で重要となる自尊感情を学校で、教室でどう育てていくかが私たち教師の責務です。授業改善については、今回の研究所での研究する機会を頂き、道徳授業について深めることを通して、他の教科へも波及させていきたいと考えています。雅志所長から頂く資料や温かい言葉かけは、人として、教師としての新たな気づきや視点を頂く貴重な学びとなっています。これからの生き方や教職実践に生かしていきたいです。
(長門照乃)

今日の所長講話は去年の自分の学級経営・教材研究について考えさせられるお話でした。目の前の子ども達に必死で対応してきたつもりですが、教材研究や子ども理解の不足があったと思います。「縁を生かす」の話は何度読んでも胸が熱くなる話で、教師になって14年間、自分が子ども達一人一人の人生を左右してきたのだと思うと教え子達が今どんな様子になっているのか気になってきます。それ位教師という仕事は人の人生を左右するかなり責任のある職業だと改めて思いました。「ネガとポジを入れ替えて」の話では、「大体はまじめな行動（適切な行動）をしている」という言葉が心に残りました。実は、この言葉はまさに去年のスクールカウンセラーの先生に言われた言葉だったからです。そして、「大体の子ども達は頑張っているのだから、そういう子ども達を守ることが大切。不適切な行動をする子は相手すればするほど行動がひどくなるからできるだけ目を向けないように気をつけてごらん。」と言われました。これを実行することは難しいことでしたが、少しずつクラスの状況が良い方向に変化していったことを覚えています。

今日の講話を聞いて、「子どもはできる！」という考えを根底に持ちながらそれを子ども達に気づかせてあげられる先生になりたいと思います。そのためにも子ども達の些細な変化に気づき、考え、行動できる教師でありたいです。
(具志堅智美)

目指す教師像として、自分はこの半年間の研究を通して、「生徒とともに考える授業」を創ろうとしてきたので、今日の講話をきいて最初に感じたことは、自分の研究してきたことに自信が持てたことです。生徒に仕向けたり、子どもの主体性を伸ばすなど、自分の研究と関わりの深いことが多く、自分の方向性に間違いはないのだと感じることができました。

中学校の現場では、休み時間は次のクラスに移動してしまい、生徒と話をする機会が少ないのですが、検証授業の期間は、授業終了後も休み時間の間は教室にしているようにしてきました。少しでも生徒と関わってほしいという思いからそのような行動をしたのですが、生徒を理解することにつながり、子供たちが寄ってくるが多かったように思います。10月から学校現場にもどってもこの姿勢を忘れずに行きたいです。また、昼休みも教室に行くなど、生徒との関わりを自分から増やして行ければと思います。
(古屋誠一)